富士見
郷土研究
発行　令和２年３月31日
富士見郷土研究会
印刷　朝日印刷工業株式会社

創立六十周年に寄せて
―本会の創立と歩み―

会長　石田和男

「富士見郷土研究会」は、昭和三十四年（１９５９）に創立され、今年度で六十周年を迎えました。その記念事業として、「六十年の歩みの年表」を作成し、記録に遺すと共に文化祭に展示すること、会報『富士見郷土研究』で「六十年のあゆみ歩みと回顧」の特集号を組むことにしました。

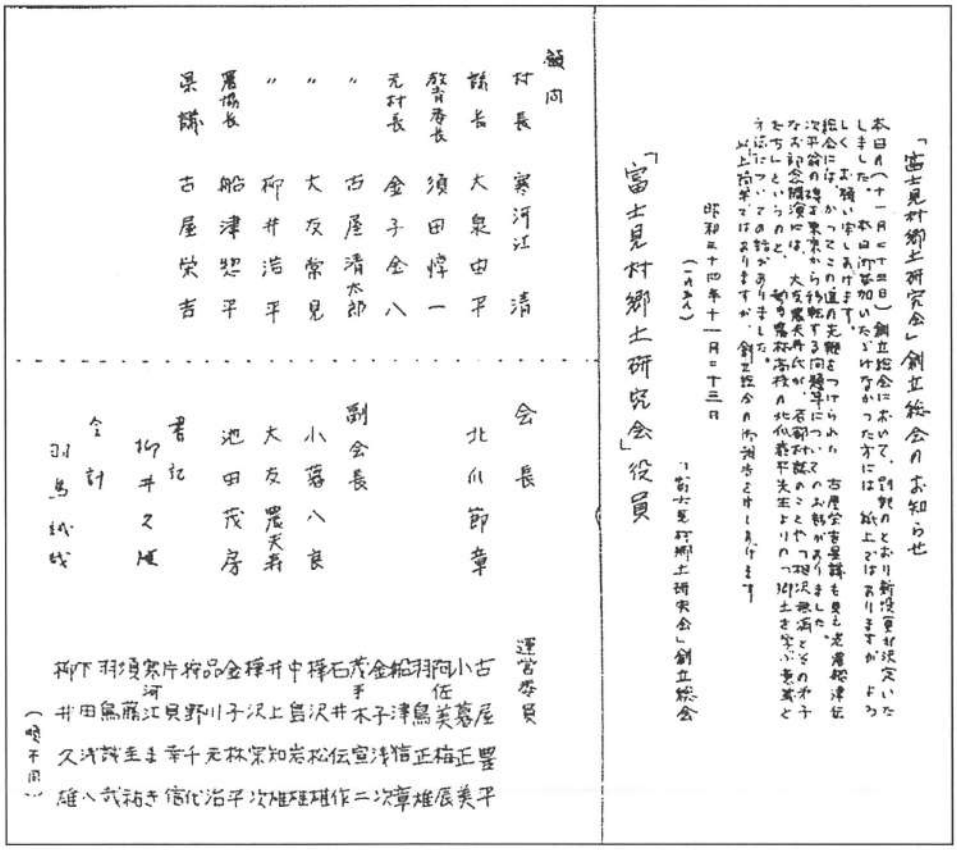
本会の歩みの年表は、見学会、郷土資料展、研究会・講演会、出版事業、その他の事業の項目別に、会報や個人から収集した資料から洗い出して、その歩み年表にしました。会報の特集号では、本会員及び元会員にその当時の活動の思い出などの回顧文を寄稿していただきました。

これらの調査活動を通して多くの新しい発見がありましたので、その一端を紹介したいと思います。

本会の創立の契機は、昭和二十九年に発行された『富士見村誌』にありました。村誌は戦後新たに誕生した社会科学習の充実を図ることから出発し、県内町村に先駆けて、村を挙げてほとんど村民の手によってつくられた特色あるものです。

村誌の完成後、編纂執筆した人たちが「村誌の誤りを直す会」を結成し、その会を中心に郷土を研究する気運が高まり、昭和三十四年十一月二十三日「富士見村郷土研究会」が創立されたのです。創立の発起人は、小暮八郎、北爪節章、大友農夫寿、羽鳥誠哉、下田浅八、柳井久雄の六名でした。

創立総会のお知らせと役員は、別紙の資料の通りです。顧問には村長や元村長、議長や教育長、農協長、県会議員が就任し、運営委員には村内の有力者や学校長・社会科の先生方が名を連ねた官民一体の全村的な組織としてスタートしたのです。


「富士見村郷土研究会」創立総会のお知らせ

本日の（十一月二十三日）創立総会において、別紙のとおり新役員が決定いたしました。お忙しいなか、ご出席いただけなかった方には、紙上ではありますが、よろしくお願いいたします。

拙会には、「郷土」の研究をつづけられる方々が、東京から移転する間もなく、次々に入会されました。古屋宮吉氏、羽鳥誠哉氏、大友農夫寿氏、柳井久雄氏、若郷村誌の誤りを正すべく、研究会を作ることになりました。

次年度の記念講演には、大友農夫寿氏が、若郷村誌の誤りを正すべく、研究会を作ることになりました。

なお、記念講演には、大友農夫寿氏が、若郷村誌の誤りを正すべく、研究会を作ることになりました。

また、「郷土」の研究をつづけられる方々が、東京から移転する間もなく、次々に入会されました。

拙会には、「郷土」の研究をつづけられる方々が、東京から移転する間もなく、次々に入会されました。

古屋宮吉氏、羽鳥誠哉氏、大友農夫寿氏、柳井久雄氏が、若郷村誌の誤りを正すべく、研究会を作ることになりました。

次年度の記念講演には、大友農夫寿氏が、若郷村誌の誤りを正すべく、研究会を作ることになりました。

なお、記念講演には、大友農夫寿氏が、若郷村誌の誤りを正すべく、研究会を作ることになりました。

また